

二九精密が新工場

手術用処置具など生産

来月稼働

【京都】二九精密機械工業（京都市南区、二九良三社長、075・661・2931）は、約6億円を投じて手術用処置具などを生産する新工場を建設し、9月下旬に稼働する。2―3年前から国内外の大手医療機器メーカーなど新規の引き合いが増加。同製品を手がける京都工場（京都市南区）が手狭なため、今後拡大する需要に備え2拠点体制を整える。主力のメディカル関連事業を強化し、全体の売上高を5年後に現状比約3・5倍の100億円に引き上げる方針。

新工場は「八木第二市」の敷地内に新設す「工場」として既存の八る。延べ床面積約2600平方メートルの2階建

て。当初の立ち上げは5人程度で行い、受注状況を見て増員する。

手術用処置具や医療用分析装置向け部品などを生産する。2階は10メートル×20メートル程度のクリーンルームと組み立てスペースを整備、1階で部品加工などを担う。また、熱処理炉や洗浄槽、複数の



（建設中の新工場）

需要拡大に備え2拠点体制に

（建設中の新工場）

研磨機などを導入する予定。受託加工で培った精密加工技術を生かし、必要な設備は自社で製造する計画だ。

医療機器は有効性や安全性の評価など、試作品開発から市場投入までの期間が長い。二九社長は「新たな取引先の試作品が、量産手前までできている。受注してからの工場建設では遅い」として、先行投資する。

同社は医療機器や半導体製造装置向けに、精密・微細な部品の受託加工やユニットの製造などを手がける。メディカル分野の売上高は全体の6割弱を担う主力。同分野は国内外で今後も伸びるとみて投資を決めた。